

## アンケート等の調査結果について

## 【目次】

I. 調査実施概要	1
II. 調査結果概要	2
1. 市民の日常生活の行動について	2
(1) 日常生活の行動（外出目的、外出頻度、外出先）	2
(2) 日常生活の行動（外出時の移動手段）	3
(3) 市民の日常生活の行動のまとめ	6
2. 市内循環バス（MMシャトル）について	7
2-1. 市内循環バスの利用状況	7
2-1-1. 事業者データに基づく利用状況	7
2-1-2. OD調査に基づく利用状況	8
(1) 利用者数	8
(2) 便別利用者数	10
(3) バス停別利用者数	11
2-2. 意向調査に基づく利用特性、意識・意向	12
(1) MMシャトルの利用特性	12
(2) MMシャトルの利用・非利用の理由	15
(3) MMシャトルの満足度	16
2-3. 所要時間調査に基づく運行状況	18
2-4. 調査結果のまとめ	19
3. 乗合タクシー（むらタク）について	20
3-1. 市・運行事業者データに基づく利用状況	20
3-2. 意向調査に基づく利用特性、意識・意向	22
(1) むらタクの認知度	22
(2) 利用者意向調査回答者の個人属性	23
(3) むらタクの利用状況	23
(4) むらタクの利用理由	24
(5) むらタクの満足度	24
3-3. 市民・MMシャトル利用者のむらタク利用意向	25
(1) むらタク導入時の利用意向	25
(2) むらタクを利用する場合の利用頻度	26
3-4. 調査結果のまとめ	27



# I. 調査実施概要

各調査の実施概要を次表に示す。

調査名	市民意向調査 (市民アンケート調査)		市内循環バス利用者意向調査 (MMシャトル利用者アンケート調査)			市内循環バス利用者OD調査 (MMシャトルOD調査)	市内循環バス所要時間調査 (MMシャトル所要時間調査)	乗合タクシー利用者意向調査 (むらタク利用者アンケート調査)		乗合タクシー(むらタク)の 利用状況の整理		
調査実施日・期間	令和2年10月9日(金)発送		平日：令和2年10月13日(火) 休日：令和2年10月11日(日)					令和2年10月5日(月)から1か月間		平成31年4月から令和2年12月までの利用実績		
調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した15歳～85歳の市民を対象に、市内4地域別に各1,250名、計5,000名		MMシャトルの全ルート全便の利用者のうち小学生以上			MMシャトルの全ルート・全便の利用者	MMシャトルの全ルート・全便	調査期間中、むらタクを利用した全ての利用者		期間内の利用者		
調査方法	アンケート票を郵便にて発送、回答後に郵送で回収		配布員がバスに乘車し、アンケート票を封入した返信用封筒を利用者に手渡し、回答後に郵送で回収			調査員がバスに乘車し、利用者に対して目視及びヒアリングにより調査を実施	調査員がバスに乘車し、各便のバス停通過時刻を記録	むらタクのドライバーが利用者に対して調査票を手渡し、回答後に郵送で回収		市資料、運行事業者による報告データに基づいて利用状況を整理		
配布・回収結果	配布数	5,000票	ルート	平日休日計( )内は平日/休日			-	-	配布数	100票	-	
	回収数	1,934票		配布数	回収数	回収率			回収数	62票		
	回収率	38.7%		上北台	365票 (253/112)	136票 (98/38)			37.3% (38.7/33.9)	回収率		62.0%
				玉川上水	415票 (314/101)	161票 (132/29)			38.8% (42.0/28.7)			
				武蔵砂川	58票 (34/24)	22票 (14/8)			37.9% (41.2/33.3)			
				西	89票 (66/23)	33票 (25/8)			37.1% (37.9/34.8)			
				合計	927票 (667/260)	362票* (276/86)*			39.1%* (41.4/33.1)*			
			*ルート不明含む									
調査内容	個人属性等	職業、年齢、居住地、運転免許・自動車保有状況	個人属性等	職業、年齢、居住地、運転免許・自動車保有状況	個人属性等	性別、年代、運賃支払方法	調査実施日のルート別・便別・バス停別・通過時刻	個人属性等	職業、年齢、居住地、運転免許・自動車保有状況	・月別利用者数の推移 ・乗降場所別利用者数 ・利用率(登録者数に対する利用者数の割合)		
	外出状況	目的、頻度、時間帯、目的地、利用交通手段、利用駅	利用状況	利用ルート・バス停、乗車日・時間帯、頻度、目的、目的地、バス停までの所要時間、支払方法、利用理由	利用状況	ルート、便、乗車・降車バス停	利用状況	乗車日・時間帯、支払方法、乗車・降車場所、目的、頻度、利用理由				
	MMシャトル利用状況	頻度、利用ルート・バス停、時間帯										
	MMシャトル満足度	本数、時間帯、ルート・バス停位置、乗り継ぎ、所要時間、定時性	満足度	本数、時間帯、ルート・バス停位置、乗り継ぎ、所要時間、定時性				満足度	乗降場所、時間帯、運行日			
	MMシャトル非利用者	利用しない理由、利用の条件	改善内容	本数、時間帯、行先				改善内容	乗降場所、時間帯、運行日			
	MMシャトルについての意識	必要性、運営のあり方、サービス維持のあり方	MMシャトルについての意識	必要性、運営のあり方、サービス維持のあり方								
	むらタクについて	認知度、利用意向(利用の有無、行先、頻度、時間帯)	むらタクについて	認知度、利用意向(利用の有無、行先、頻度、時間帯)								
	新型コロナウイルスの影響	外出の変化、変化の度合い	新型コロナウイルスの影響	外出の変化、変化の度合い				新型コロナウイルスの影響	外出の変化、変化の度合い			

## II. 調査結果概要

### 1. 市民の日常生活の行動について (市民意向調査(市民アンケート調査))

#### (1) 日常生活の行動(外出目的、外出頻度、外出先)

外出目的：20代から50代にかけては「通勤」の割合が高い。

60代から80代以上へと、「買い物」「通院」の割合が高くなる。

外出頻度：通勤通学は週に4日以上、買い物、通院、習い事、レジャー・娯楽は週に2、3日の割合が高い。

外出先：通勤・通学では、立川市をはじめ、市外が多い。

買い物では、イオンモール、通院では武蔵村山病院が最も多い。

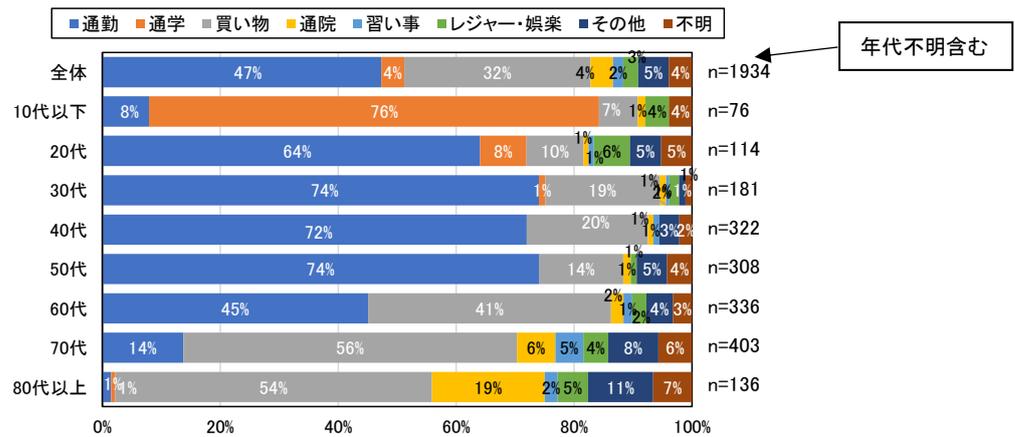


図1 年代別・外出目的

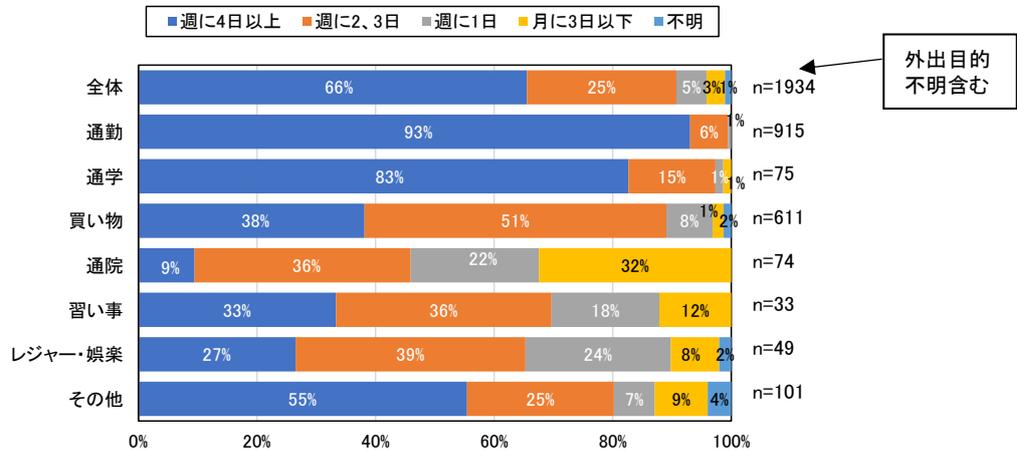


図2 外出目的別・外出頻度

表1 通勤・通学の外出先

目的地	件数
立川市	113
東大和市	75
イオンモール	69
瑞穂町	64
会社・職場	43
昭島市	42
八王子市	21
府中市	21
新宿区	21
青梅市	19
小平市	16
東村山市	13
日野市	13
羽村市	13
村山医療センター	11
埼玉県入間市	10

表2 買い物の外出先

目的地	件数
イオンモール	256
瑞穂町	67
いなげや	57
東大和市	45
いなげや残堀店	27
立川市	23
いなげやむさし村山店	16
たいらや	16
武蔵村山病院	14
ダイエー	11
オザム	11
ダイエー武蔵村山店	10
オザム村山店	10

表3 通院の外出先

目的地	件数
武蔵村山病院	21
イオンモール	10

\*各表、10件以上を抽出

(2) 日常生活の行動（外出時の移動手段）

①最終目的地までの移動手段（鉄道、モノレールの利用有無）

- 鉄道・モノレールの利用は29%である（全体）。
- 通学、レジャー・娯楽、通院では、鉄道・モノレールの利用割合が相対的に高い。

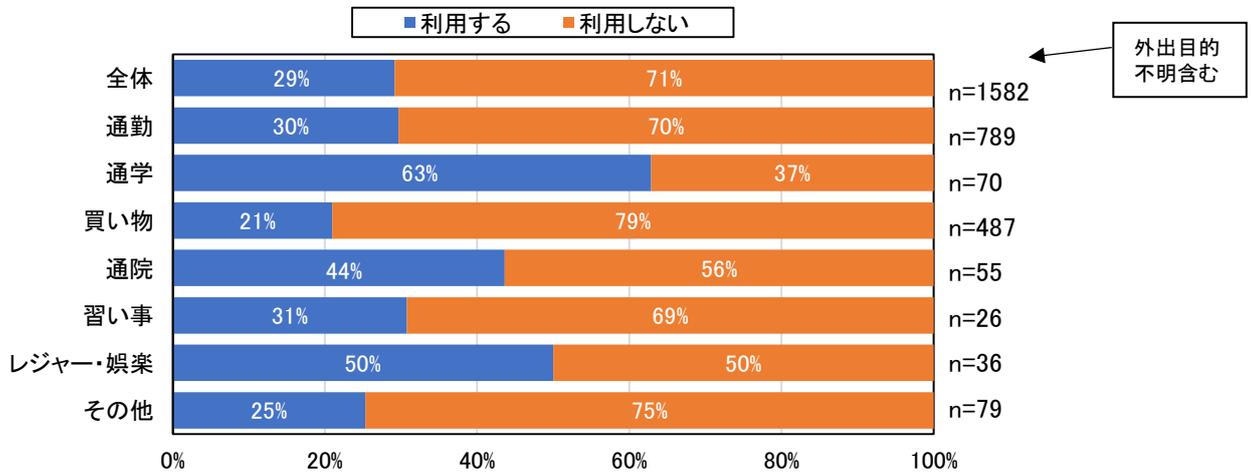


図3 外出目的別・鉄道モノレールの利用有無

②最終目的地までの移動手段（鉄道・モノレール以外を利用する場合）

- 通学で自転車、通院で送迎の割合が高いほかは、自動車（自分で運転）の割合が高い。
- 路線バスの利用割合が比較的高い目的は通学、MMシャトルでは通院と習い事で、それぞれ10%以上である。
- むらタクの利用割合が比較的高い目的は通院で3%である。

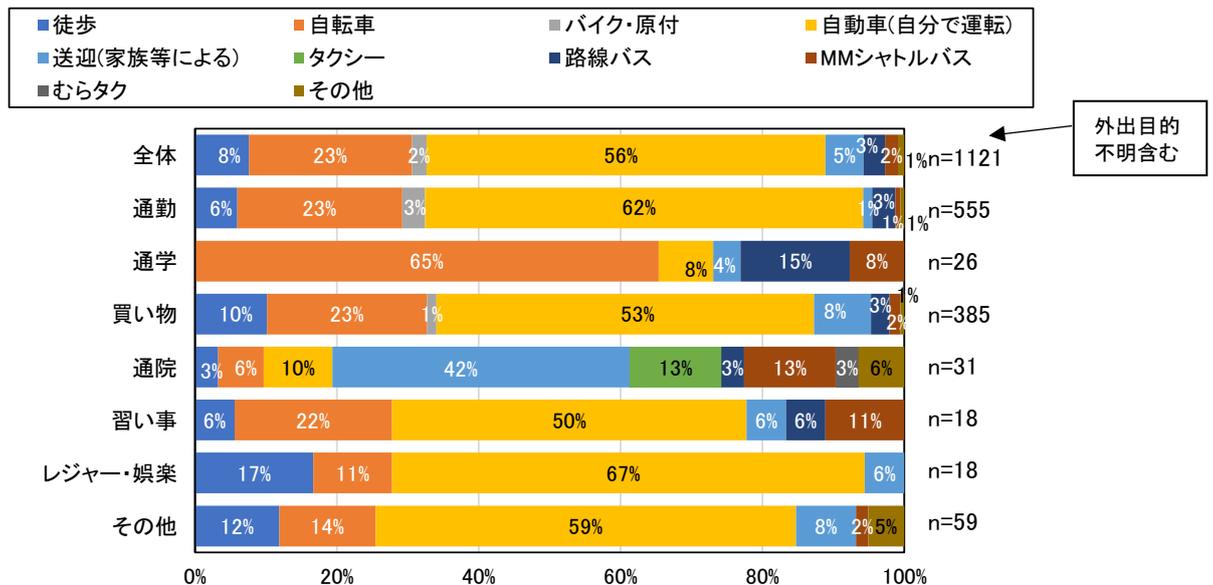


図4 外出目的別・主な移動手段（鉄道・モノレール以外の場合）

### ③鉄道・モノレールを利用する場合の利用駅

- 上北台駅と玉川上水駅利用が 20%以上、立川駅と昭島駅利用は 10%以上
- 上北台駅が最多の地域：神明、中央、中藤、本町
- 玉川上水駅が最多の地域：学園、大南
- 武蔵砂川駅が最多の地域：※無し（なお、榎、三ツ藤、大南では 20%以上）
- 立川駅が最多の地域：榎、三ツ藤、三ツ木
- 昭島駅が最多の地域：伊奈平、残堀、中原

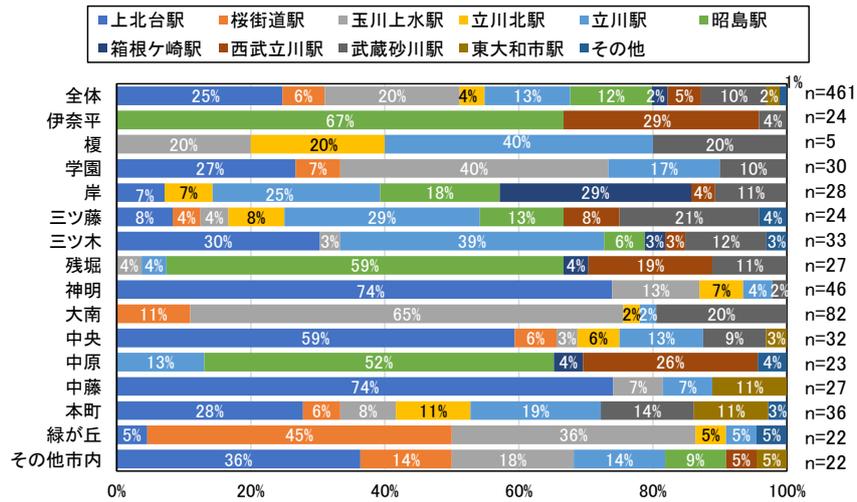


図 5 居住地域別利用駅

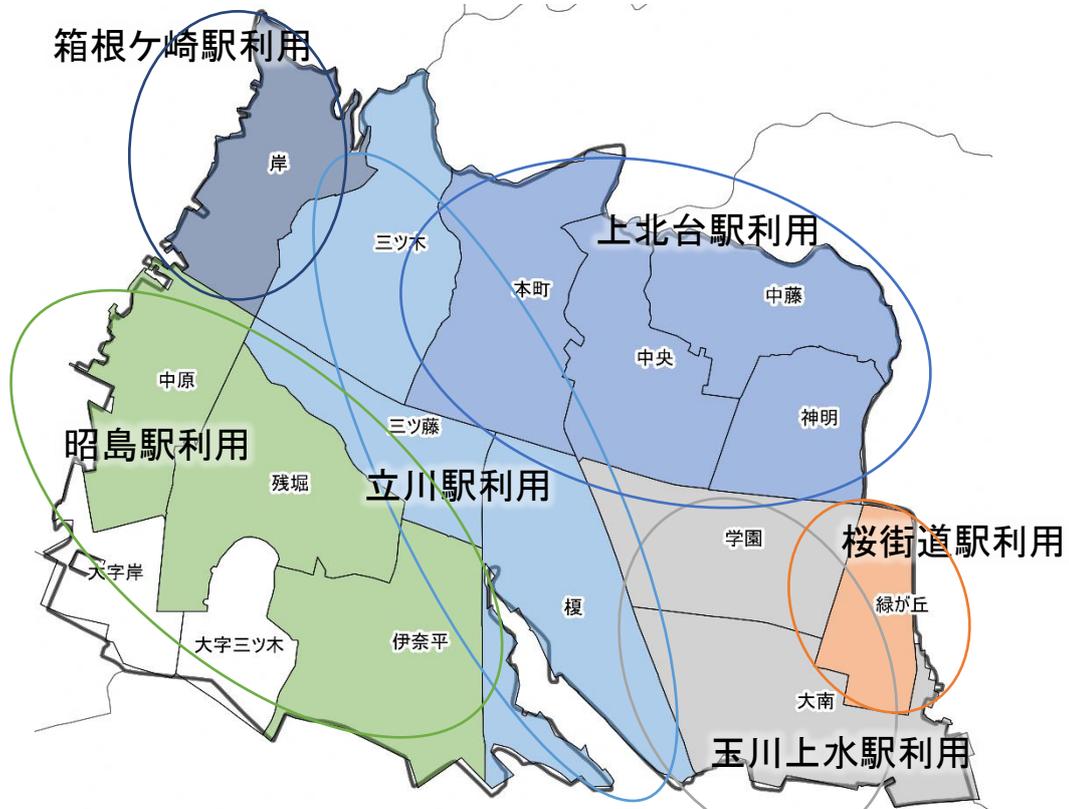


図 6 居住地域別利用駅（各地域で最も利用割合の高い駅）

#### ④最寄り駅までの主なアクセス手段

- 上北台駅は、自転車の割合が最も高い。MMシャトルは23%である。
- 玉川上水駅は、自転車の割合が最も高い。MMシャトルは10%である。
- 立川駅、昭島駅は、路線バスの割合が50%以上である。
- 武蔵砂川駅では、自転車の割合が最も高い。MMシャトルの利用者はいない。
- 多くの地域で、自転車と路線バスの割合が高い。

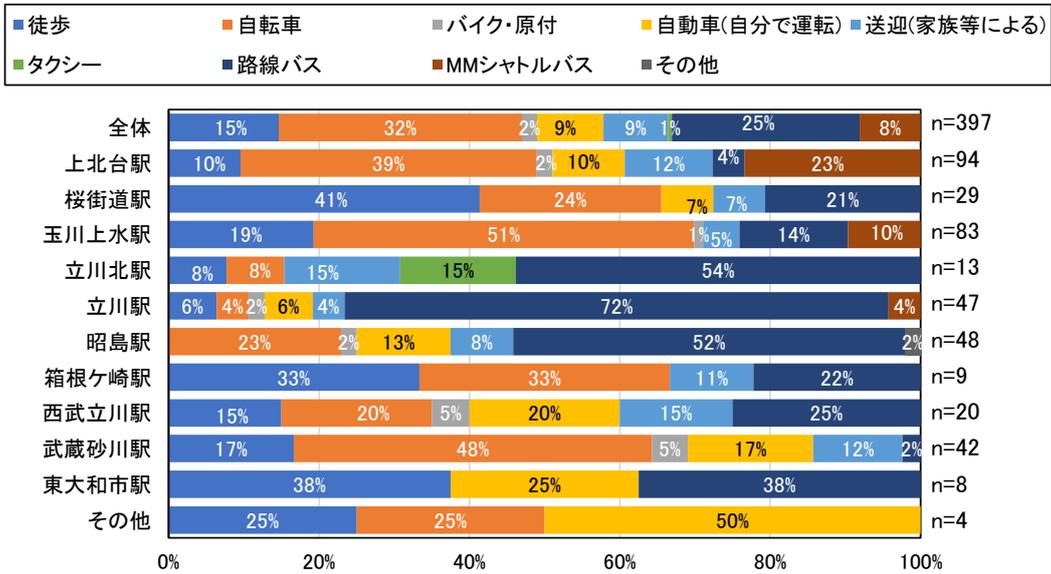


図7 駅別・利用駅までのアクセス手段

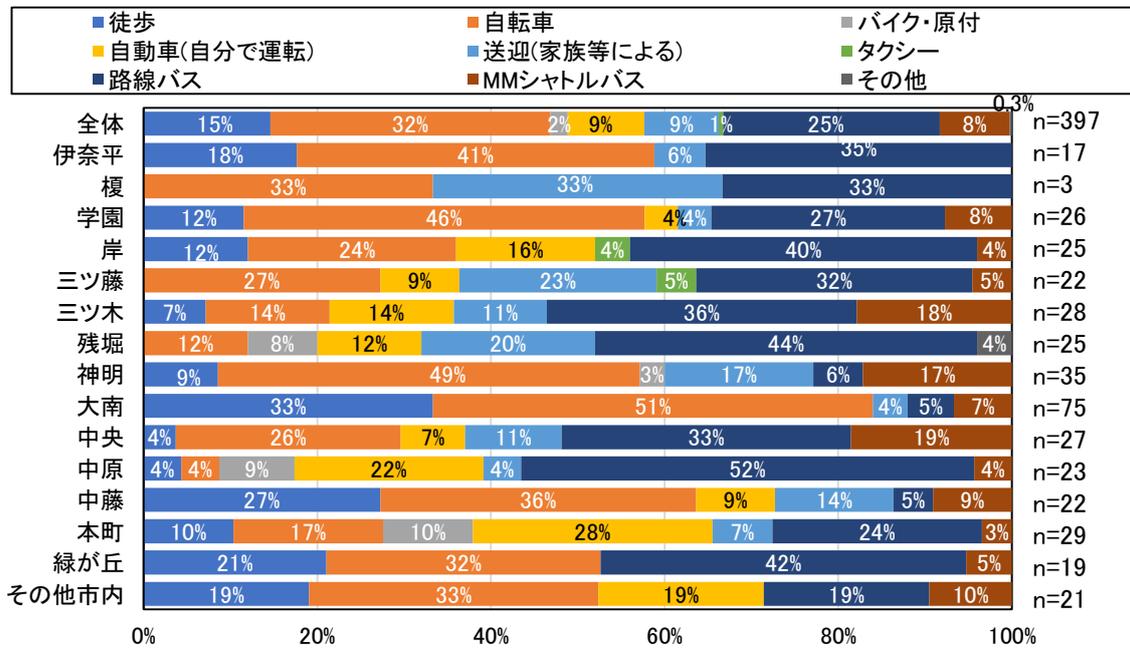


図8 居住地域別・利用駅までのアクセス手段

(3) 市民の日常生活の行動のまとめ

	日常生活の行動 (外出目的、外出頻度、外出先)		日常生活の行動 (外出時の移動手段)	
調査結果概要	外出目的 (P2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20代～50代は通勤</li> <li>・60代から80代以上は買い物・通院</li> </ul>	移動手段 (P3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道・モノレール利用は29%。</li> <li>・鉄道・モノレール利用以外のうちMMシャトルは2%、通院と習い事では10%以上、むらたくは通院で3%</li> </ul>
	外出頻度 (P2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤・通学は週4日以上</li> <li>・買い物・通院・習い事は週2,3日</li> </ul>	利用駅 (P4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用駅は、上北台駅と玉川上水駅が20%以上、立川駅と昭島駅が10%以上</li> <li>・武蔵砂川駅利用が最多となる地域はない</li> </ul>
	外出先 (最終目的地)(P2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤・通学は立川市をはじめ、市外が多い。</li> <li>・買い物はイオンモール、通院は武蔵村山病院が多い。</li> </ul>	駅アクセス 手段 (P5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上北台駅と玉川上水駅は自転車、立川駅と昭島駅は路線バスの割合が高い</li> <li>・MMシャトル利用は、上北台駅で23%、玉川上水駅で10%</li> <li>・武蔵砂川駅は、自転車利用が多く、MMシャトルの回答はない</li> </ul>
総括	○通勤・通学での市外への移動、買い物・通院での市内移動が特徴的である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道・モノレール利用は、市外利用となるが、立川駅、昭島駅など距離の長いアクセスも多い。</li> <li>○上北台駅・玉川上水駅アクセスではMMシャトル利用がみられる。武蔵砂川駅へのMMシャトル利用はない。</li> </ul>	

## 2. 市内循環バス（MMシャトル）について

### 2-1. 市内循環バスの利用状況

#### 2-1-1. 事業者データに基づく利用状況

• 運行を開始した平成 25 年度以降、上北台ルートと玉川上水ルートは年間 10 万人から 13 万人程度で推移している。一方、武蔵砂川ルートと西ルートは年間 2 万人未満と少なく、武蔵砂川ルートは微減傾向にある。

※令和 2 年度第 2 回地域公共交通会議資料より

※事業者データに基づく実績で、現金・ICカード以外の利用者数は含まれていない。

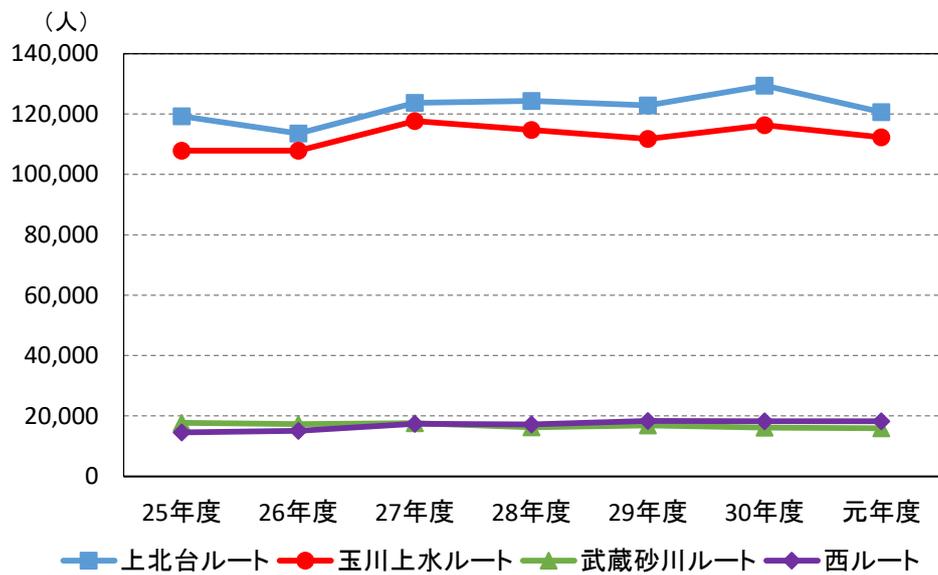


図 9 事業者データに基づくMMシャトルの利用実績

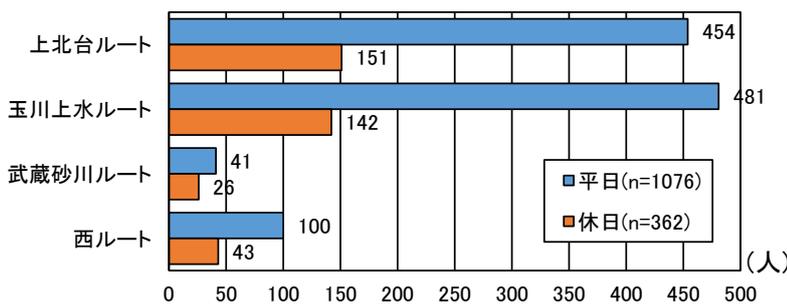
## 2-1-2. OD調査に基づく利用状況

### (1) 利用者数

#### ①ルート別

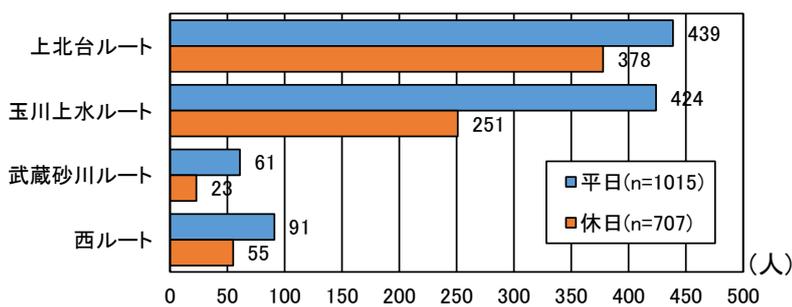
- 平日、休日ともに、玉川上水ルートと上北台ルートの利用者数が多い。
- 武蔵砂川ルートと西ルートの利用者数は少なく、1便当り利用者数も少ない。
- 平成26年度と比べ、上北台ルートと玉川上水ルートでは、平日で増加、休日は減少している。武蔵砂川ルートでは、平日で減少、休日は微増となっている。西ルートでは、平日で微増、休日は減少となっている。

#### 【今回（令和2年）】



ルート	1便あたり利用者数	
	平日	休日
上北台	7.1人/便	3.4人/便
玉川上水	10.5人/便	4.6人/便
武蔵砂川	2.6人/便	2.1人/便
西	4.0人/便	1.9人/便

#### 【前回（平成26年）】



ルート	1便あたり利用者数	
	平日	休日
上北台	6.9人/便	8.4人/便
玉川上水	9.2人/便	8.1人/便
武蔵砂川	3.8人/便	1.9人/便
西	3.6人/便	2.4人/便

注) 循環便(上北台通勤時ルート、武蔵砂川ルート)は2便として1便あたり利用者数を算出した。

図10 ルート別利用者数 今回調査(上図)、前回調査(下図)

## ②性別

- 全体として、平日、休日とも女性の割合が高い。通勤時は、日中時よりも男性の割合が高い。

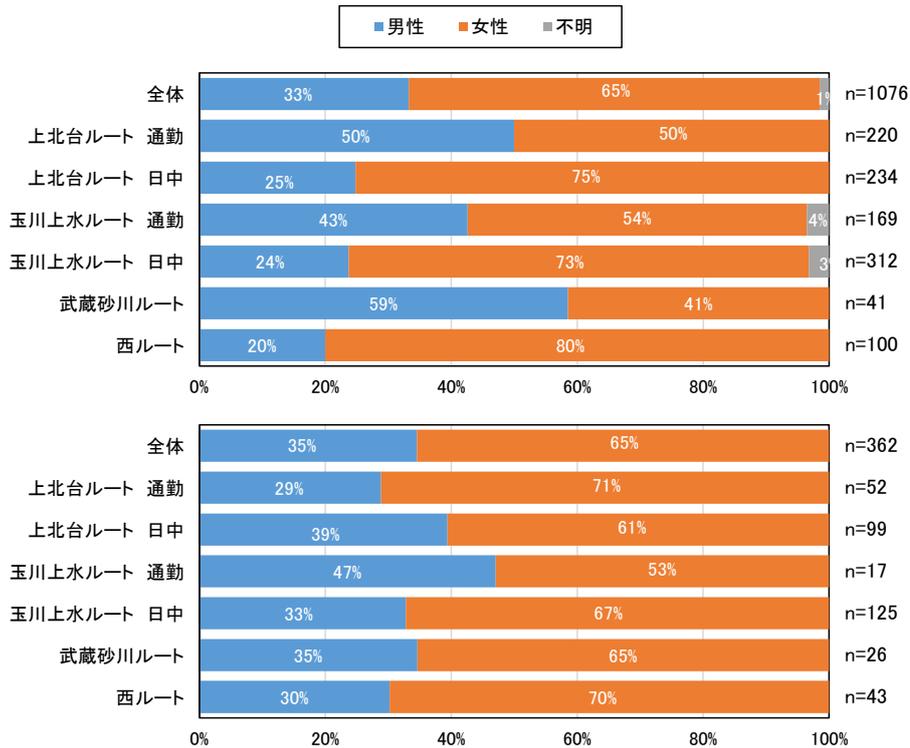


図 11 性別利用者数構成比 平日(上図)、休日(下図)

## ③年代別

- 通勤時では「大人」、日中時では「高齢者」の割合が高い。中高生以下の割合は低い。

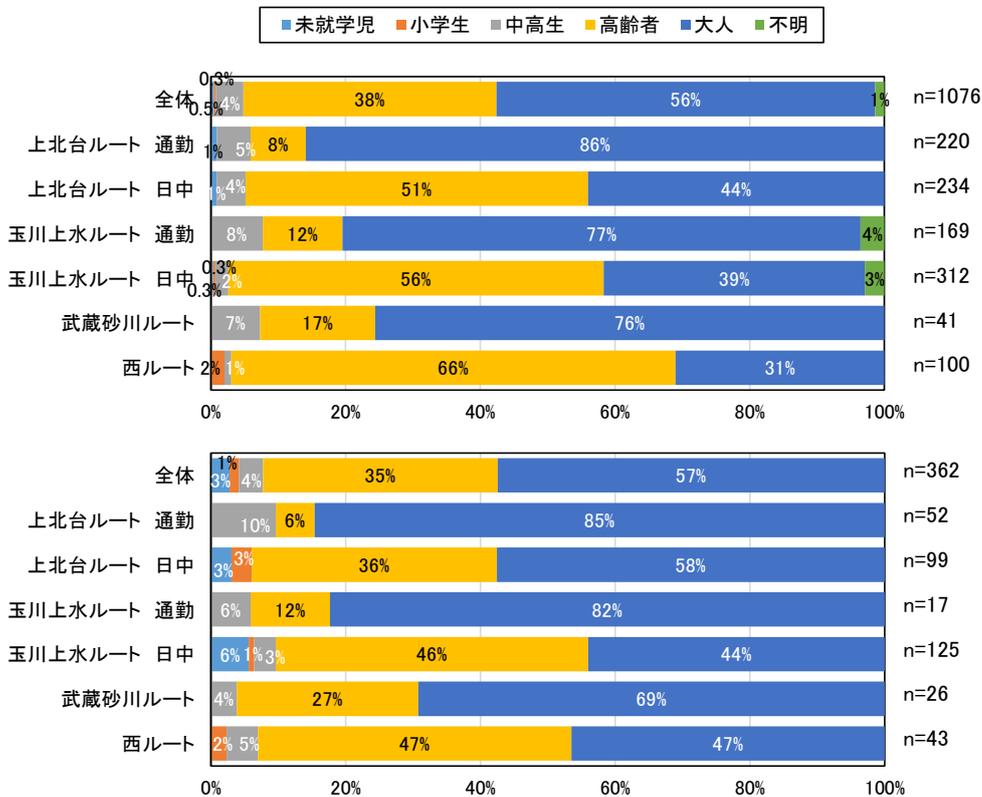


図 12 年代別利用者数構成比 平日(上図)、休日(下図)

(2) 便別利用者数

- 上北台ルート：平日は朝・日中・夕夜とも最多が15人以上と多い。日中の利用が多い。  
 ○玉川上水ルート：平日は朝・日中・夕夜とも最多が10人以上。日中時の利用が多く、平日平均は15.6人/便である。  
 ○武蔵砂川ルート：利用が少なく、平日・休日のどの時間帯も平均4人/便未満である。  
 ○西ルート：最多は10人だが、平日・休日とも平均4人/便以下と少ない。

※詳細は参考資料 65～69 ページを参照

表4 便別の利用者数

ルート	曜日		朝(通勤時ルート)	日中(日中時ルート)	夕夜(通勤時ルート)
上北台 注)	平日	便数	17便	26便	21便
		最多	18人	19人	15人
		最少	0人	3人	0人
		平均	6.9人/便	9.0人/便	4.9人/便
	休日	便数	6便	26便	13便
		最多	6人	7人	8人
		最少	0人	1人	0人
		平均	2.8人/便	3.8人/便	2.7人/便
玉川上水	平日	便数	10便	20便	16便
		最多	15人	27人	10人
		最少	1人	6人	0人
		平均	9.1人/便	15.6人/便	4.9人/便
	休日	便数	2便	21便	5便
		最多	3人	13人	5人
		最少	3人	2人	0人
		平均	3.0人/便	6.0人/便	2.2人/便
武蔵砂川 注)	平日	便数	8便		8便
		最多	8人	—	4人
		最少	0人		0人
		平均	3.8人/便		1.4人/便
	休日	便数	6便		6便
		最多	2人		5人
		最少	0人		0人
		平均	1.3人/便		3.0人/便
西	平日	便数		25便	
		最多	—	10人	—
		最少		1人	
		平均		4.0人/便	
	休日	便数		23便	
		最多	—	5人	—
		最少		0人	
		平均		1.9人/便	

注) 上北台ルート(朝、夕夜)、武蔵砂川ルートでは、循環便を2便(往・復1便ずつ)とした。

(3) バス停別乗降者数

- 上北台ルート：上北台駅を起終点とした利用。武蔵村山市役所以西の利用は少ない。
- 玉川上水ルート：通勤時は、玉川上水駅を起終点とした利用。日中時は、玉川上水駅のほか、イオンモールなどを起終点とした利用。
- 武蔵砂川ルート：武蔵砂川駅を起終点とした利用。三ツ藤以西は少ない。
- 西ルート：イオンモールや村山医療センターを起終点とした利用。

※詳細は参考資料 70～72 ページを参照

表 5 バス停別の乗降者数

ルート	時間帯	乗降者数の状況
上北台	通勤時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに上北台駅が最も多い。次いで、平日では武蔵村山市役所前が多い。</li> <li>武蔵村山市役所以西での乗降は比較的少ない。</li> </ul>
	日中時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに上北台駅が最も多い。次いで、平日では武蔵村山市役所前が多い。</li> <li>オカネ塚公園、神明三丁目の乗降は比較的多い。</li> <li>武蔵村山市役所以西での乗降は比較的少ない。</li> </ul>
玉川上水	通勤時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに玉川上水駅が最も多い。次いで、平日では学南通りが多い。</li> <li>玉川上水駅に近いバス停での乗降は少ない。</li> </ul>
	日中時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに玉川上水駅が最も多い。イオンモール、村山医療センターの乗降も多い。</li> <li>休日では、学園、大南三丁目、湖南衛生組合前の乗降が多い。</li> <li>玉川上水駅に近いバス停での乗降は少ない。</li> </ul>
武蔵砂川	通勤時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに、全体的に乗降が少ない。全く乗降のないバス停もある。</li> <li>その中で、乗降が多いバス停は、武蔵砂川駅、イオンモールである。</li> </ul>
西	日中時	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに、イオンモールが最も多い。次いで、平日では村山医療センター、休日では武蔵村山高校南が多い。</li> </ul>

## 2-2. 意向調査に基づく利用特性、意識・意向

(市民意向調査結果、利用者意向調査結果)

### (1) MMシャトルの利用特性

#### 1) MMシャトルの利用頻度

##### ①市民の利用頻度 (市民意向調査より)

・ほとんど利用しないが全体の82.3%と最も高い。週に1日以上は全体の4.9%。

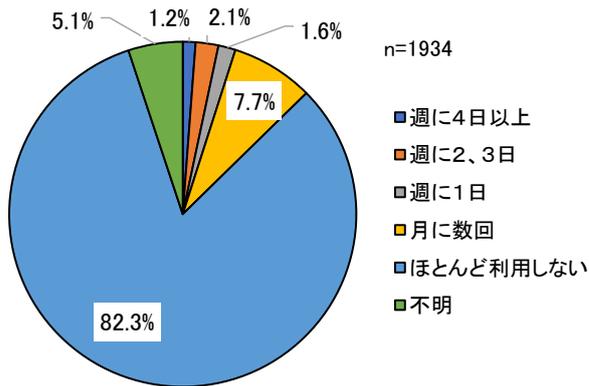


図13 MMシャトルの利用頻度

##### ②MMシャトル利用者の利用頻度 (市内循環バス利用者意向調査より)

・「週に4日以上」は、通勤時の上北台ルート、玉川上水ルート、武蔵砂川ルートで過半数。  
 ・日中は、週に2、3日の割合が高い。

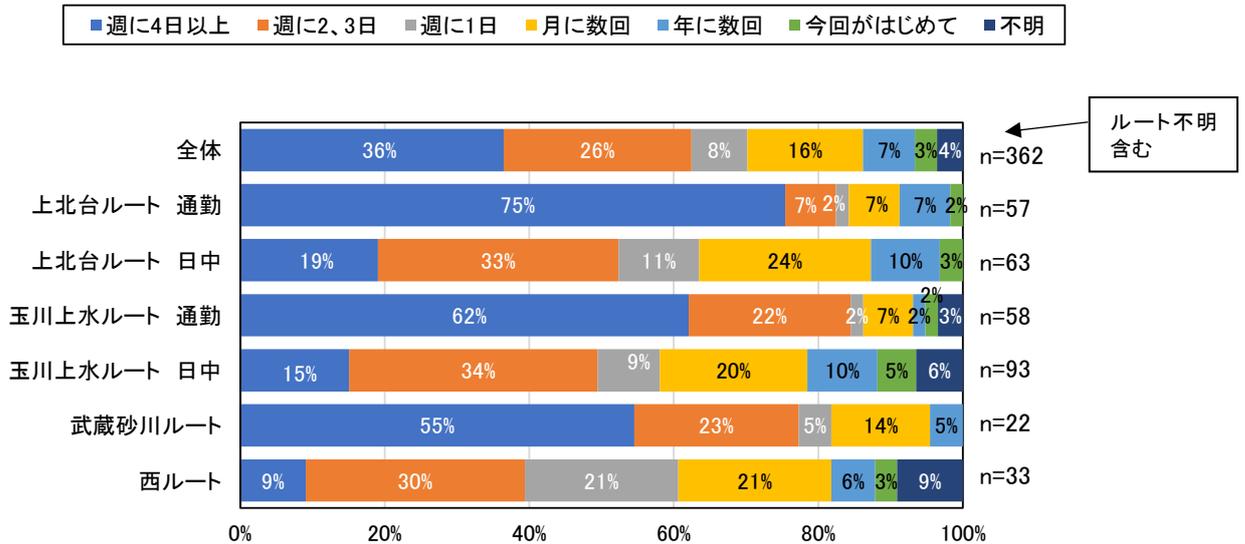


図14 MMシャトルの利用頻度

## 2) 乗車目的

- 通勤時では、通勤の割合が最も高い。
- 日中時では、買い物、通院、レジャー・娯楽の割合が高い。

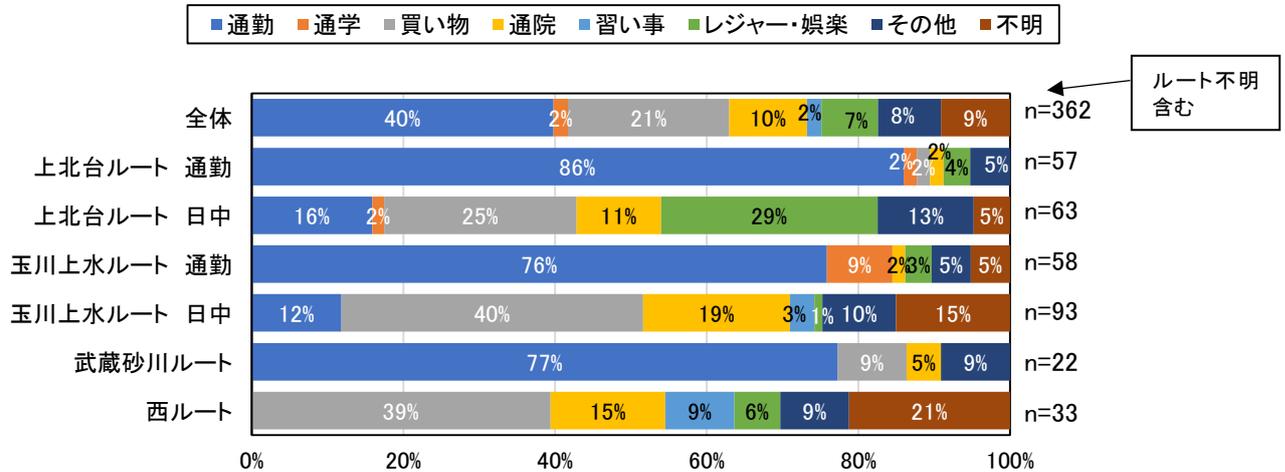


図 15 MMシャトルの乗車目的

## 3) 行先（最終目的地）

- 上北台ルート：上北台駅が最も多く、次いでコープ上北台店、立川市である。
- 玉川上水ルート：イオンモールが最も多く、次いで村山医療センターである。
- 武蔵砂川ルート：武蔵砂川駅、イオンモールが最も多い。
- 西ルート：イオンモールが最も多く、次いで村山医療センター、武蔵村山病院である。

表 6 利用者の行き先

(上北台ルート)		(玉川上水ルート)		(武蔵砂川ルート)		(西ルート)	
目的地	件数	目的地	件数	目的地	件数	目的地	件数
上北台駅	18	イオンモール	28	武蔵砂川駅	5	イオンモール	13
コープ上北台店	9	村山医療センター	17	イオンモール	5	村山医療センター	7
立川市	8	自宅(市内)	12	会社	4	武蔵村山病院	4
武蔵村山市役所	7	会社・職場	11			ジョイフル本田	2
会社・職場	6	玉川上水駅	10				
村山温泉かたくりの湯	6	いなげや	8				
総合体育館	5	武蔵村山病院	7				
自宅(市内)	4	武蔵村山市役所	6				
立川駅	3	村山温泉かたくりの湯	4				
市民総合センター	2	病院	4				
武蔵村山郵便局	2	自宅(東大和市)	2				
小林農園	2	拝島	2				
おさか内科・整形外科	2	立川市	2				
イオンモール	2						
ウェルパーク	2						
いなげや	2						
カラオケBanBan	2						
武蔵村山市民会館	2						

### 3) 利用券種

• 通勤時はICカードの利用割合が高く、日中時ではシルバーパスの利用割合が高い。

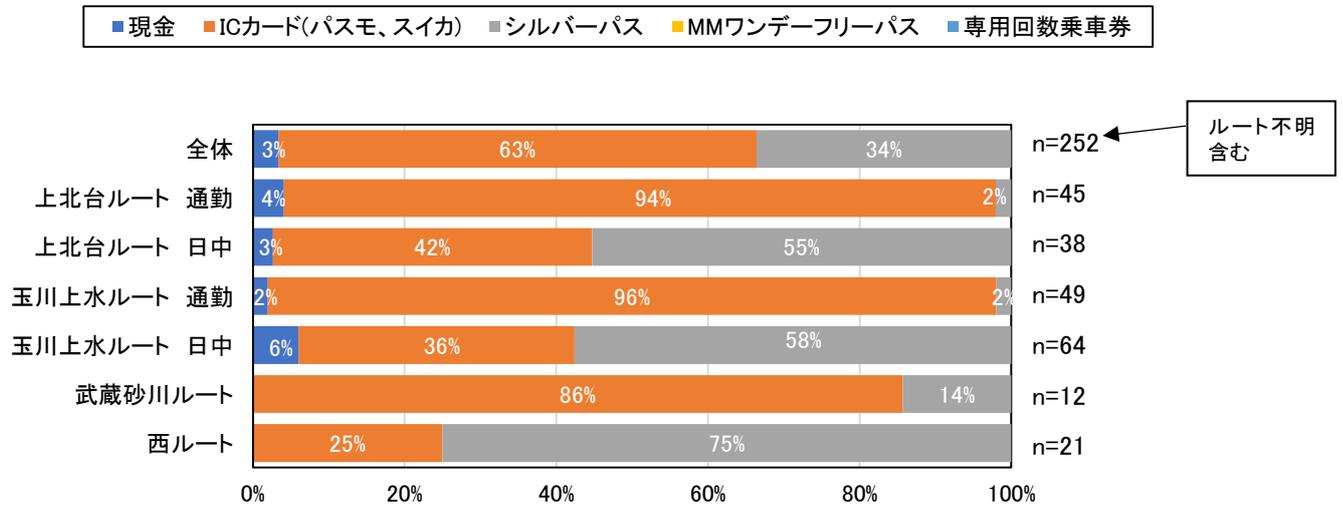


図 16 MMシャトルの利用券種 【平日】

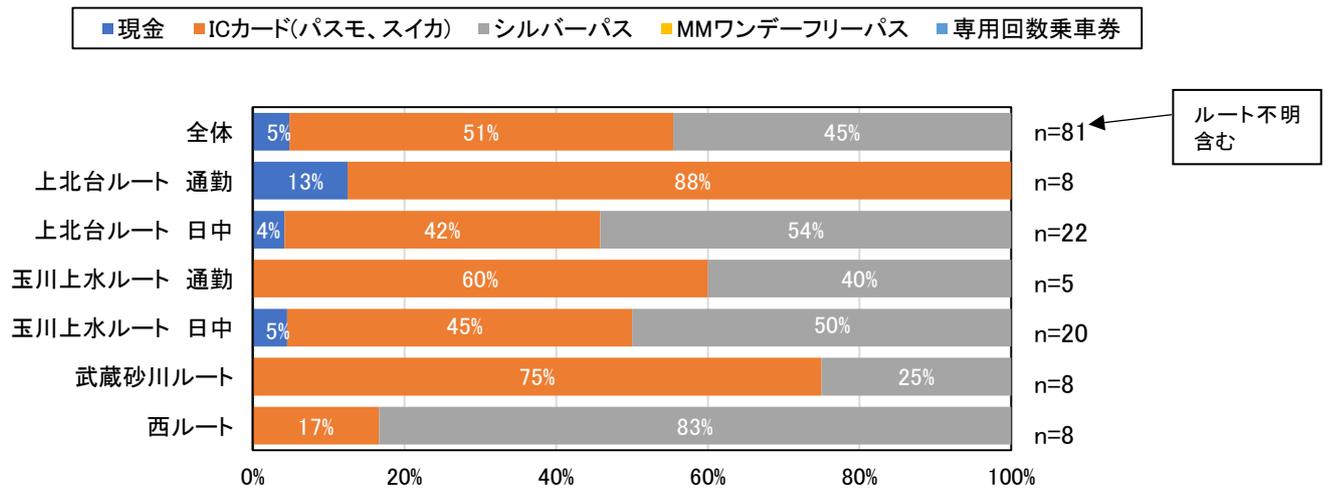


図 17 MMシャトルの利用券種 【休日】

(2) MMシャトルの利用・非利用の理由

①MMシャトルを利用する理由（市内循環バス利用者意向調査より）

・「ほかに移動手段がないから」の割合が最も高く過半数である。「ほかの移動手段よりも便利だから」も約40%である。

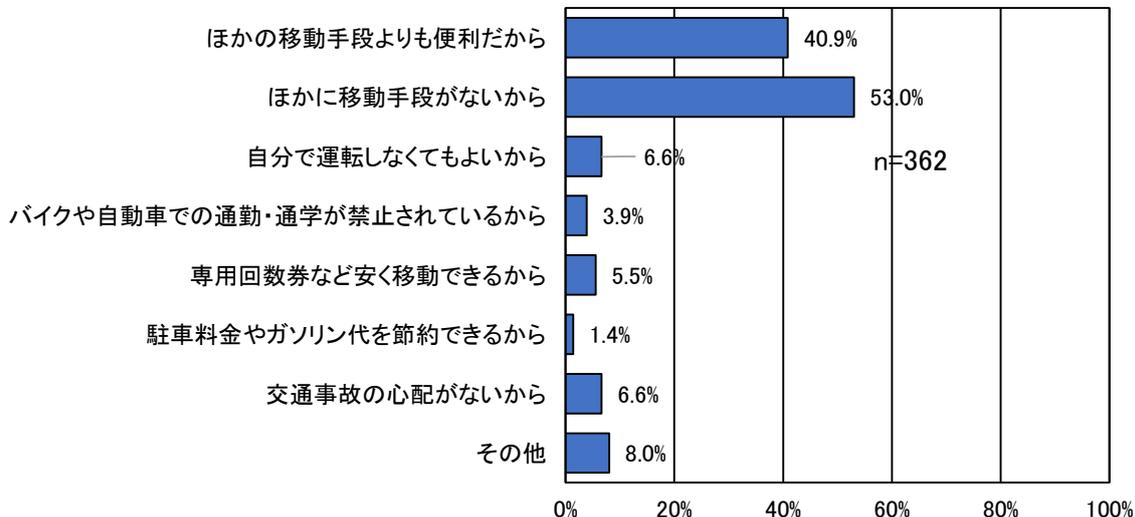


図 18 MMシャトルを利用する理由

②MMシャトル非利用者の利用しない理由（市民意向調査より）

・「他の交通手段(路線バス、自動車など)の方が便利」とする割合が最も高い。  
 ・その他、「目的地までバス路線がない」「迂回が多く所要時間がかかる」が20%以上。

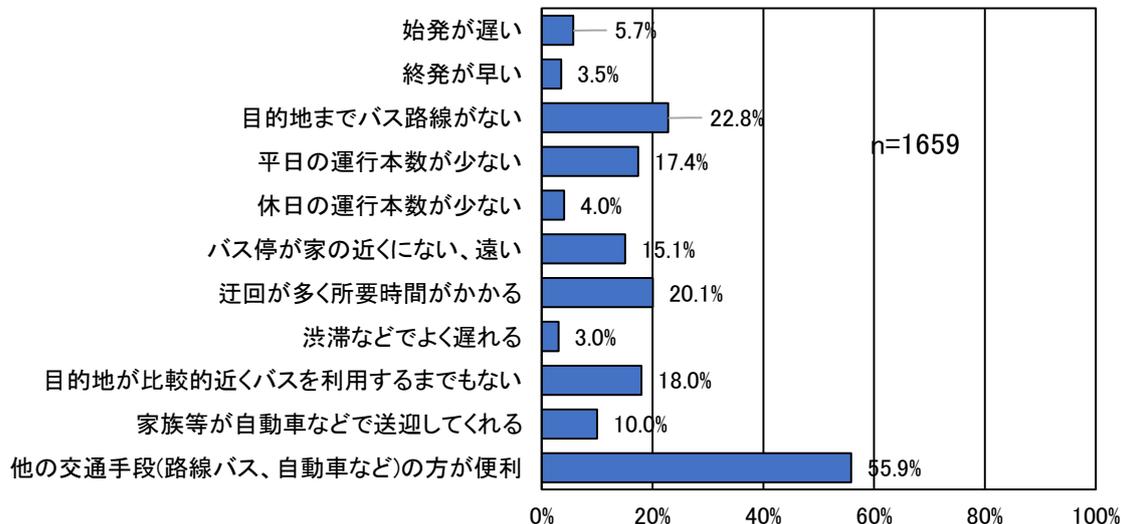


図 19 MMシャトルを利用しない理由

(3) MMシャトルの満足度

<p>①上北台ルート</p> <p>通勤時：平日・休日の運行本数の少なさ、始発が遅い・終発が早い、鉄道・モノレールとの乗りつぎの悪さが50%以上となっている。</p> <p>日中時：平日・休日の運行本数の少なさが50%以上となっている。</p>
<p>②玉川上水ルート</p> <p>通勤時：平日・休日の運行本数の少なさ、始発が遅い・終発が早い、迂回が多く所要時間がかかるが50%以上となっている。</p> <p>日中時：平日・休日の運行本数の少なさ、終発が早い、迂回が多く所要時間がかかる、渋滞などでよく遅れるが50%以上となっている。</p>
<p>③武蔵砂川ルート</p> <p>・平日・休日の運行本数の少なさ、目的地までバス路線がない、鉄道・モノレールとの乗りつぎが悪い、迂回が多く所要時間がかかる、渋滞などでよく遅れるが50%以上となっている。</p>
<p>④西ルート</p> <p>・多くの項目で不満が高い。</p>

表7 各ルートの満足度  
 (不満=「そう思う」+「ややそう思う」の割合)  
 (①②③④⑤は不満割合が高い順位(5位まで表示))

	上北台ルート		玉川上水ルート		武蔵砂川 ルート	西ルート
	通勤時	日中時	通勤時	日中時		
平日の運行本数が少ない	② 68%	① 60%	① 80%	① 83%	① 91%	① 75%
休日の運行本数が少ない	③ 54%	② 54%	② 72%	② 78%	③ 64%	54%
始発が遅い	④ 51%	36%	④ 51%	39%	45%	⑤ 57%
終発が早い	① 78%	③ 49%	③ 56%	⑤ 50%	43%	54%
目的地までバス路線がない	20%	⑤ 41%	30%	36%	⑤ 53%	③ 65%
鉄道・モノレールとの乗りつぎが悪い	⑤ 50%	39%	44%	33%	50%	⑤ 57%
バス同士の乗りつぎが悪い	20%	30%	14%	43%	40%	② 67%
迂回が多く所要時間がかかる	47%	④ 43%	⑤ 50%	③ 61%	④ 55%	④ 64%
渋滞などでよく遅れる	44%	32%	32%	④ 60%	② 75%	41%
自宅からバス停が遠い	16%	18%	20%	9%	12%	18%
バス停から目的地が遠い	11%	14%	17%	19%	37%	33%

⑤総合的なMMシャトルの満足度

- 武蔵砂川ルートで総合的な満足度が低く、「不満」「やや不満」の合計が50%である。
- 「満足」「やや満足」の合計が最も高い路線は、日中時の上北台ルートと玉川上水ルートである。（ともに45%）

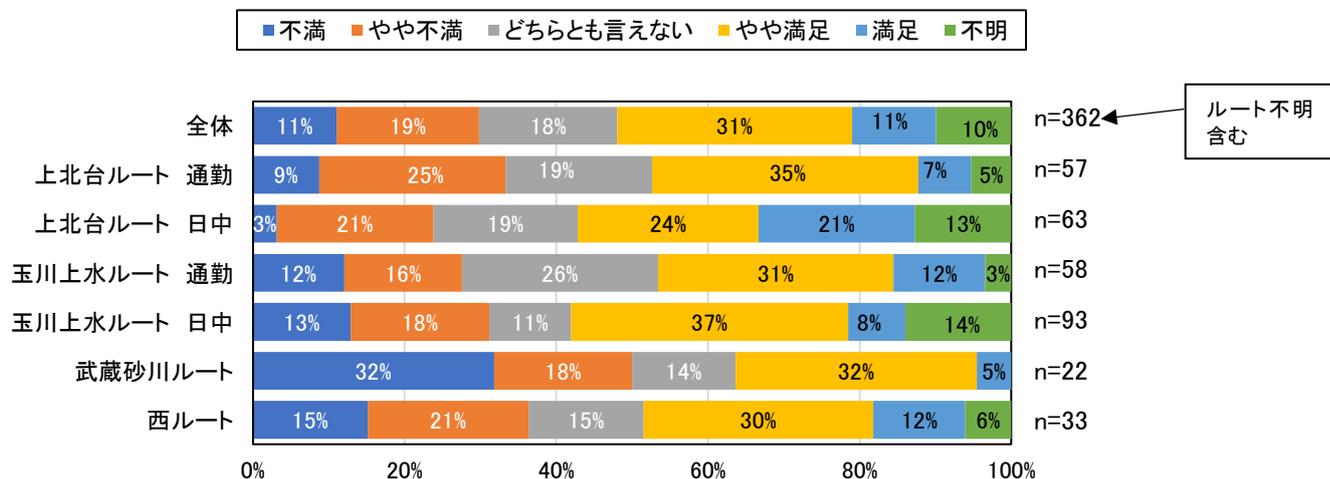


図 20 MMシャトルの総合的な満足度

## 2-3. 所要時間調査に基づく運行状況

### ■ルート別の遅延状況

- 上北台ルート：日中時では、通勤時よりも遅延が大きく、5分以上の遅延がみられる便も多い。  
 ○玉川上水ルート：日中時では大半の便で遅延が生じている。  
 ○武蔵砂川ルート：特に朝において、非常に大きな遅延が生じている。  
 ○西ルート：特に休日において、遅延が生じている便が多く、遅延時間も大きい。

※詳細は参考資料 85～89 ページを参照

表 8 各ルートの遅延状況

ルート	時間帯	方向		平日			休日		
				運行 便数	5分以上 遅延便数	最大遅延 時間	運行 便数	5分以上 遅延便数	最大遅延 時間
上北台	通勤時	循環	朝	10便	4便	7分	4便	0便	2分
			夕夜	13便	3便	8分	9便	0便	4分
	日中時	上北台駅発	日中	13便	8便	9分	13便	3便	9分
		総合体育館発	日中	13便	9便	11分	13便	6便	11分
玉川上水	通勤時	玉川上水駅発	朝	4便	2便	7分	—	—	—
			夕夜	9便	5便	13分	3便	2便	6分
		武蔵村山市役 所発	朝	6便	5便	11分	2便	0便	4分
			夕夜	7便	2便	8分	2便	0便	4分
	日中時	玉川上水駅発	日中	10便	9便	11分	11便	11便	13分
		村山温泉かた くりの湯発	日中	10便	10便	13分	10便	9便	15分
武蔵砂川	通勤時	循環	朝	4便	4便	26分	3便	1便	10分
			夕夜	4便	1便	8分	3便	1便	13分
西	日中時	村山医療セン ター発	日中	12便	8便	9分	11便	9便	10分
		総合体育館発	日中	13便	6便	9分	12便	12便	13分

2-4. 調査結果のまとめ

(1) MMシャトル全般

		MMシャトルの利用特性		MMシャトルの利用・非利用の理由	
調査結果概要	利用頻度 (P12)	市民全体(市民意向調査)	・ほとんど利用しない:82.3% ・週1日以上利用:4.9%	利用者の利用する理由 (P15)	・ほかに移動手段がないが過半数 ・ほかの移動手段よりも便利が約40%
	乗車目的 (P13)	利用者(利用者意向調査)	・週1日以上利用:70% ・通勤時は週4日以上が過半数 ・日中時は週2,3日	非利用者の利用しない理由 (P15)	・他の移動手段が便利が過半数 ・目的地までの路線がない、迂回が多く所要時間がかかるが20%以上
	利用券種 (P14)		・通勤時はICカードの利用割合が高い。 ・日中時ではシルバーパスの利用割合が高い。		
総括	○市民全体ではMMシャトル利用の割合は低い、利用者の利用頻度は高い。			○利用しない理由は、他の移動手段が便利であること。迂回も一因	

(2) ルート別の利用状況、満足状況、運行状況(遅延)

	利用状況		利用者の属性	利用者のニーズ		バス運行状況(所要時間調査)		
	利用者数( )内は前回調査(H26.11)			満足度(不満のワースト順) 総合(不満+やや不満/満足+やや満足)	遅延時間			
	平日	休日			平日	休日		
計	利用者数	1,076(1,015)人/日	362(707)人/日	性別(P9) ・全体として女性割合が高い。 ・平日通勤時は男性割合が高い。	総合 30%/42%	-	-	
上北台	利用者数変化(P7)	・平成25年以降、年間11万~13万人程度で、概ね横ばい傾向		年代(P9) ・通勤時は「大人」の割合が高い。 ・日中時は高齢者割合が高い。	(P16) (通勤時) ①終発の早さ ②平日本数 ③休日本数 ④始発の遅さ ⑤モルルとの乗継ぎ	(P18) ・朝最大7分 ・夕夜最大8分 ・日中時最大11分	(P18) ・通勤時最大4分 ・日中時最大11分	
	利用者数(P8)	454(439)人/日 7.1人/便	151(378)人/日 3.4人/便		(日中時) ①平日本数 ②休日本数 ③終発の早さ ④迂回所要時間大 ⑤目的地へ路線ない	総合(P17) 通勤時:34%/42% 日中時:24%/45%		
	便別(P10)	朝0~18人 日中3~19人 夕夜0~15人 平均7.1人/便	朝0~6人 日中1~7人 夜0~8人 平均3.4人/便					
	バス停別(P11)	・平日、休日とも上北台駅が最多。 ・平日の武蔵村山市役所前、オカネ塚公園、神明三丁目も多い。 ・市役所以西の乗降は比較的少ない。						
玉川上水	利用者数変化(P7)	・平成25年以降、年間10万~11万人程度で、概ね横ばい傾向			(P16) (通勤時) ①平日本数 ②休日本数 ③終発の早さ ④始発の遅さ ⑤迂回所要時間大	(P18) ・通勤時最大13分 ・日中時最大13分	(P18) ・通勤時最大6分 ・日中時最大15分	
	利用者数(P8)	481(424)人/日 10.5人/便	142(251)人/日 4.6人/便		(日中時) ①平日本数 ②休日本数 ③迂回所要時間大 ④渋滞で遅延 ⑤終発の早さ	総合(P17) 通勤時:28%/43% 日中時:31%/45%		
	便別(P10)	朝1~15人 日中5~27人 夕夜0~10人 平均10.5人/便	朝1 日中2~13人 夕夜0~5人 平均4.6人/便					
	バス停別(P11)	・平日、休日とも玉川上水駅が最多。 ・日中時のイオンモール、村山医療センター、湖南衛生組合前なども多い。 ・玉川上水駅に近いバス停での乗降は少ない。						
武蔵砂川	利用者数変化(P7)	・平成25年以降、年間1.5万~1.8万人程度で、微減傾向			(P16) ①平日本数 ②渋滞 ③休日本数 ④迂回所要時間大 ⑤目的地へ路線ない	(P18) ・朝最大26分 ・夕夜最大8分	(P18) ・最大13分	
	利用者数(P8)	41(61)人/日 2.6人/便	26(23)人/日 2.1人/便		総合(P17) 50%/37%			
	便別(P10)	朝0~8人 夕夜0~4人 平均2.6人/便	朝1~2人 夕夜0~5人 平均2.1人/便					
	バス停別(P11)	・平日、休日とも、全体的に乗降が少ない。その中で、武蔵砂川駅、イオンモールが多い。						
西	利用者数変化(P7)	・平成25年以降、年間1.4万~1.8万人程度で、微増傾向			(P16) ①平日本数 ②バス同士乗継 ③目的地へ路線ない ④迂回所要時間大 ⑤始発の遅さ	(P18) ・最大9分	(P18) ・最大13分	
	利用者数(P8)	100(91)人/日 4.0人/便	43(55)人/日 1.9人/便		総合(P17) 36%/42%			
	便別(P10)	日中1~10人 平均4.0人/便	日中0~5人 平均1.9人/便					
	バス停別(P11)	・平日、休日とも、イオンモールが最多。平日の村山医療センター、休日の武蔵村山高校南も多い。						
総括	○上北台ルート、玉川上水ルートの利用が多く、武蔵砂川ルートと西ルートはともに利用が少ない。			○通勤時は男性利用 ○日中時は女性や高齢者利用	○どのルートも運行本数に不満 ○その他、上北台と玉川上水は終発の早さ、武蔵砂川は渋滞、西は乗り継ぎに不満 ○総合では武蔵砂川の不満が高い	○どのルートも遅延が生じている。 ○中でも武蔵砂川ルートの遅延が大きい		

### 3. 乗合タクシー（むらタク）について

#### 3-1. 市・運行事業者データに基づく利用状況

##### ①月別利用者数の推移

- 月別利用者数は、令和元年は概ね 300 人/月前後を推移している。
- 緊急事態宣言が発出された令和 2 年 4～5 月は利用者が大きく落ち込んだものの、直近では回復している。

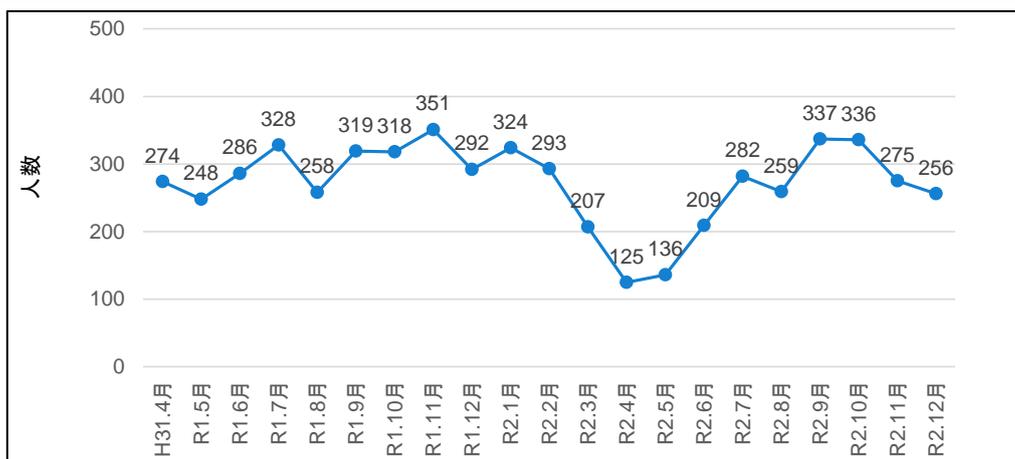
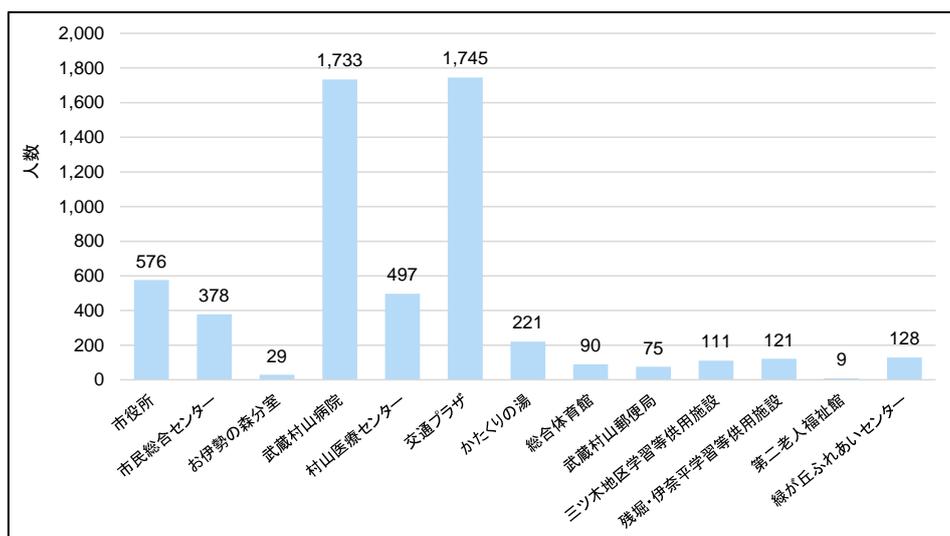


図 21 むらタクの利用者数の月別推移

##### ②乗降場所別利用者数

- 交通プラザと武蔵村山病院が突出して多く、次いで市役所や村山医療センター、市民総合センターが多い。



注) 「お伊勢の森分室」は、令和 2 年 4 月から「福祉会館」に改称

図 22 むらタクの場所別利用者数 (H31 年 4 月～R2 年 12 月累計)

### ③利用率（登録者数に対する利用者数の割合）

・むらタクの利用率（登録者数に対する実利用者数）は、1割を満たない月が多い。

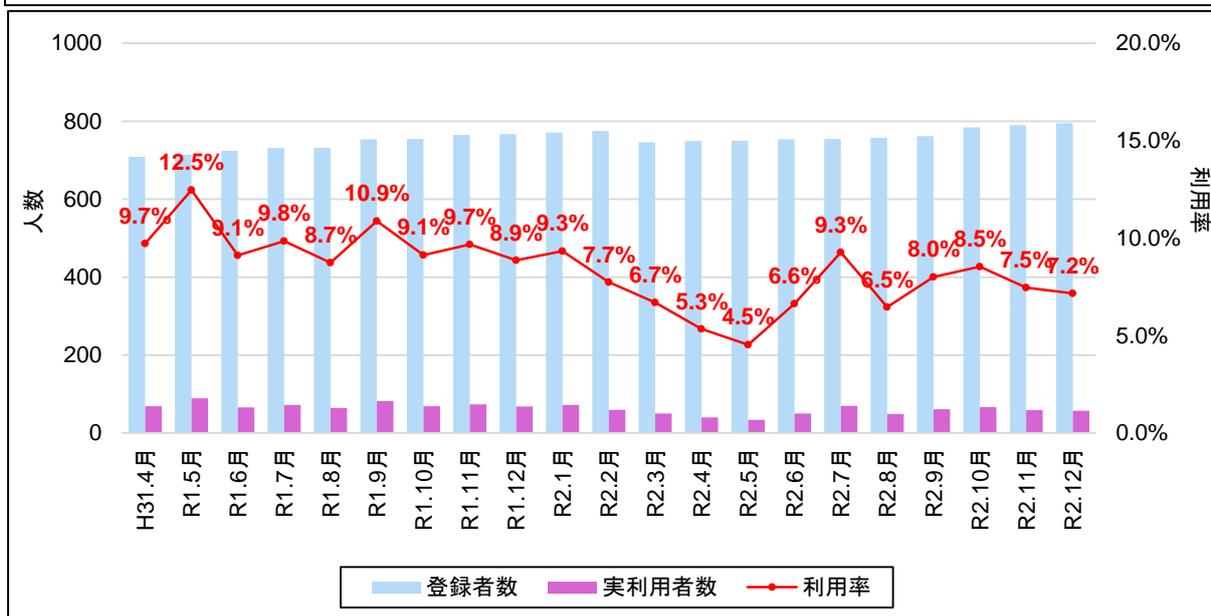


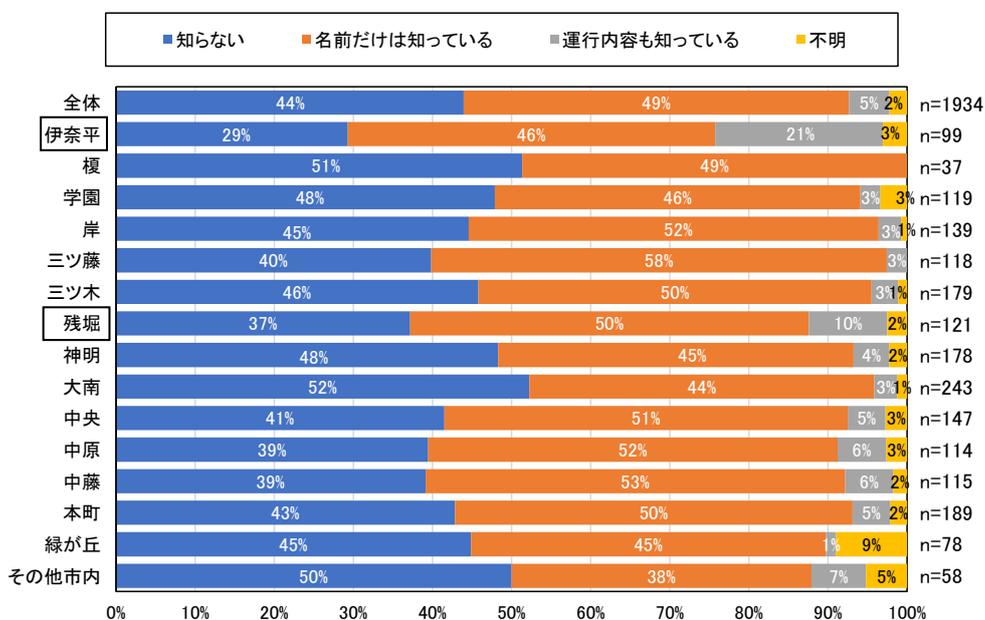
図 23 むらタクの利用率（登録者数に対する実利用者数）の月別推移

### 3-2. 意向調査に基づく利用特性、意識・意向

#### (1) むらタクの認知度

##### ①市民のむらタクの認知度（市民意向調査より）

・むらタクが運行されている伊奈平では「運行内容も知っている」が21%であるが、全体として「名前だけは知っている」割合が高く、「知らない」の割合も高い。

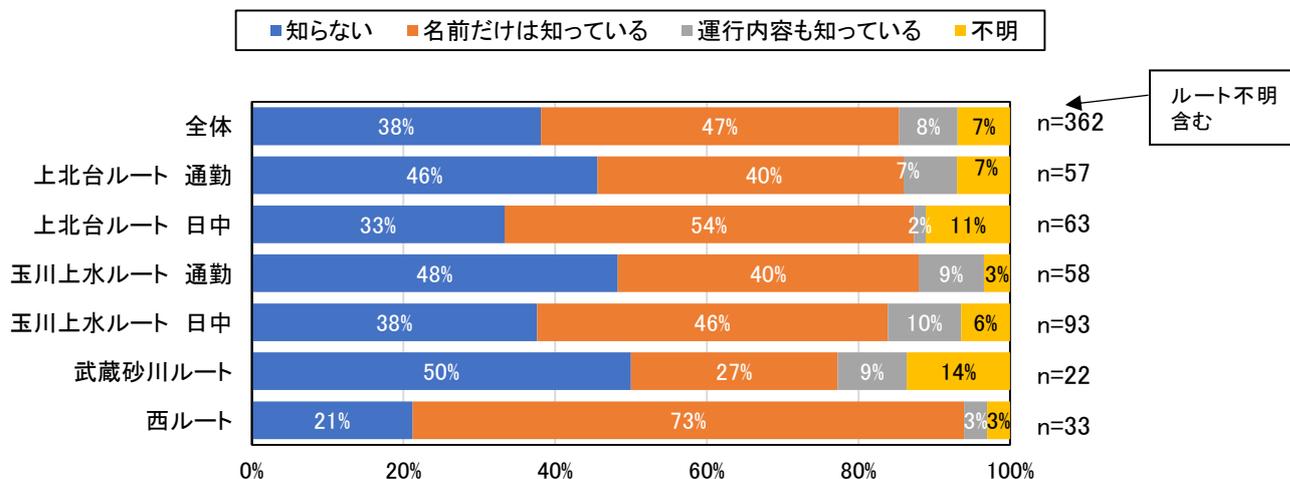


注) □で囲まれた地区はむらタク利用登録可能なエリア

図 24 居住地別・むらタクの認知度

##### ②MMシャトル利用者のむらタクの認知度（市内循環バス利用者意向調査より）

・「名前だけ知っている」「運行内容も知っている」を合わせた割合が全体で過半数である。  
 ・通勤時よりも日中時のほうが知っている割合が高い。  
 ・むらタクの運行エリアと重複する西ルートでは、「名前だけ知っている」「運行内容も知っている」を合わせた割合が高く、「知らない」の割合は低い。



ルートを不明含む

図 25 むらタクの認知度

(2) 利用者意向調査回答者の個人属性

年齢：70代以上の割合が高い。

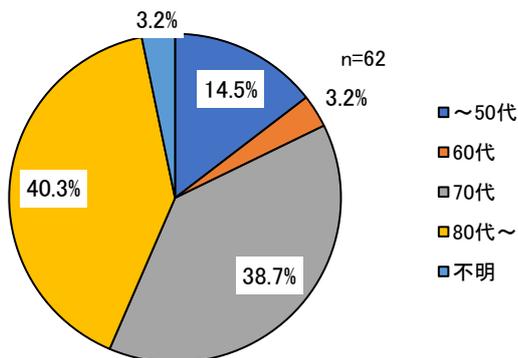


図 26 年代構成比

(3) むらタクの利用状況

①乗車曜日、乗車時間帯

・乗車曜日：平日(月~金)が60人、休日(土)が2人である。  
 ・乗車時間帯：「9~11時台」の割合が過半数で、次いで「12~14時台」の割合が高い。

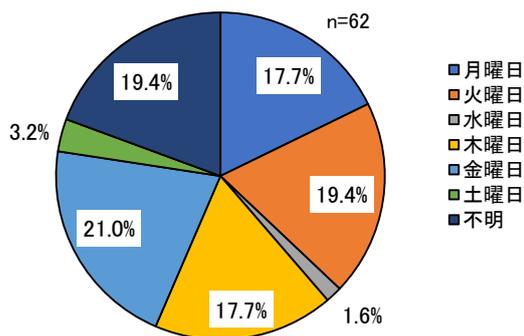


図 27 乗車曜日

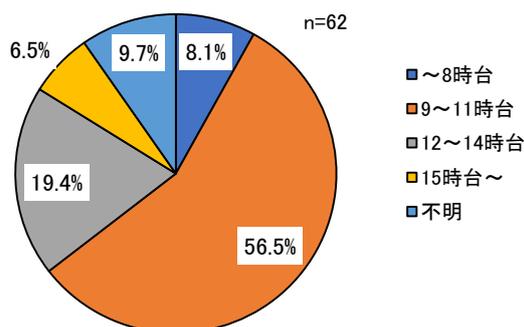


図 28 乗車時間帯

②乗車目的

・「通院」の割合が最も高く過半数である。「買い物」も25.8%と高い。

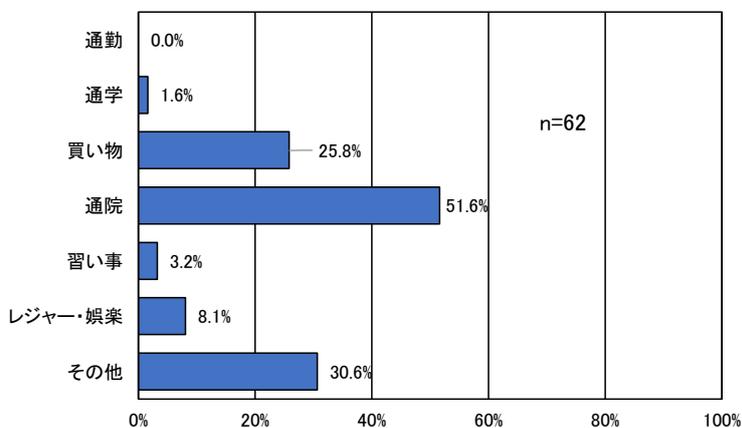


図 29 乗車目的

### ③利用頻度

・「月に数回」の割合が最も高い。次いで「週に1日」「月に数回」である。

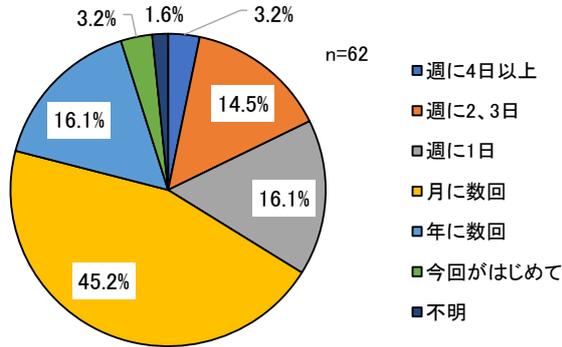


図 30 利用頻度

### (4) むらタクの利用理由

・「ほかに移動手段がないから」が最も高い。

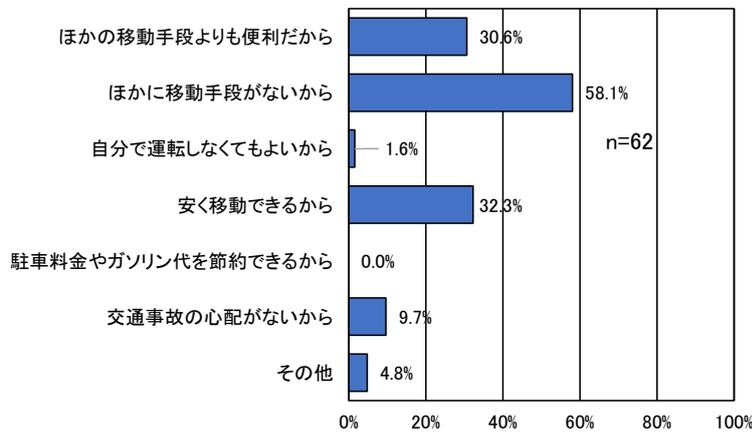


図 31 むらタクを利用する理由

### (5) むらタクの満足度

・日曜・祝日の運行要望、乗降場所の少なさ、終発が早いことへの不満が多い。  
 ・総合的な満足度は、「やや満足」「満足」を合わせると90%である。

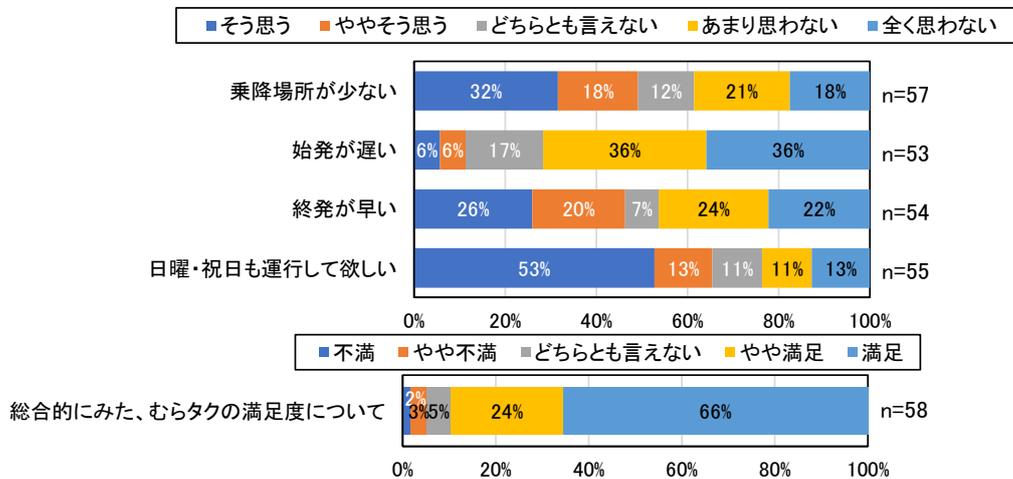


図 32 満足度

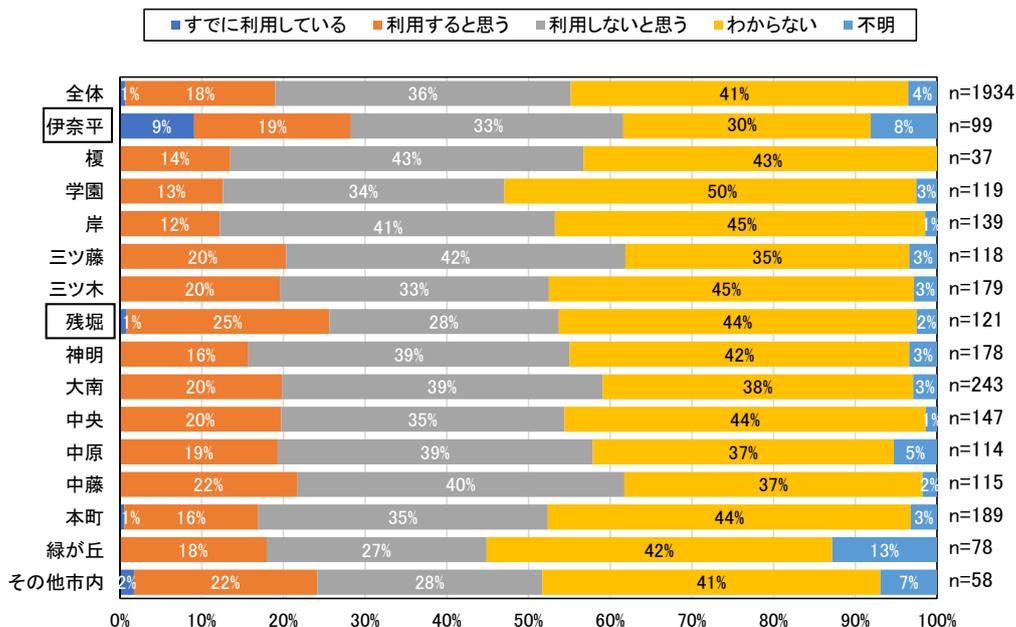
### 3-3. 市民・MMシャトル利用者のむらタク利用意向

(市民意向調査結果、市内循環バス (MMシャトル) 利用者アンケート調査結果)

#### (1) むらタク導入時の利用意向

##### ①市民の利用意向 (市民意向調査より)

・「わからない」の回答がどの地区も最も多く、「利用すると思う」は12%~25%である。

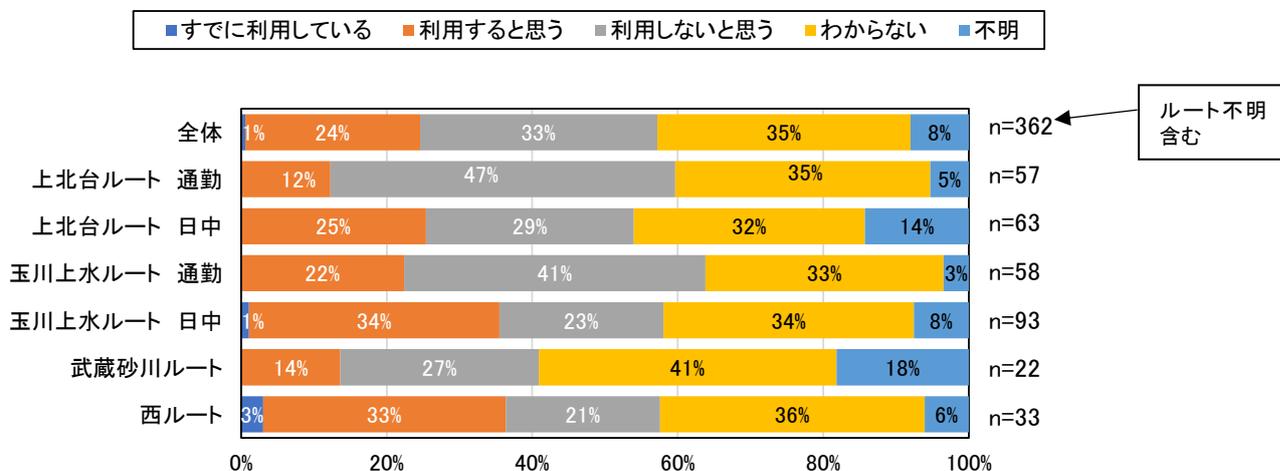


注) □で囲まれた地区はむらタク利用登録可能なエリア

図 33 居住地別・むらタクの利用意向

##### ②MMシャトル利用者の利用意向 (市内循環バス利用者意向調査より)

・全体では、「わからない」が最も高く、次いで「利用しないと思う」である。  
 ・「利用すると思う」「すでに利用している」を合わせた割合が最も高い路線は西ルートである。  
 また、日中時のほうが「利用すると思う」割合が高い。



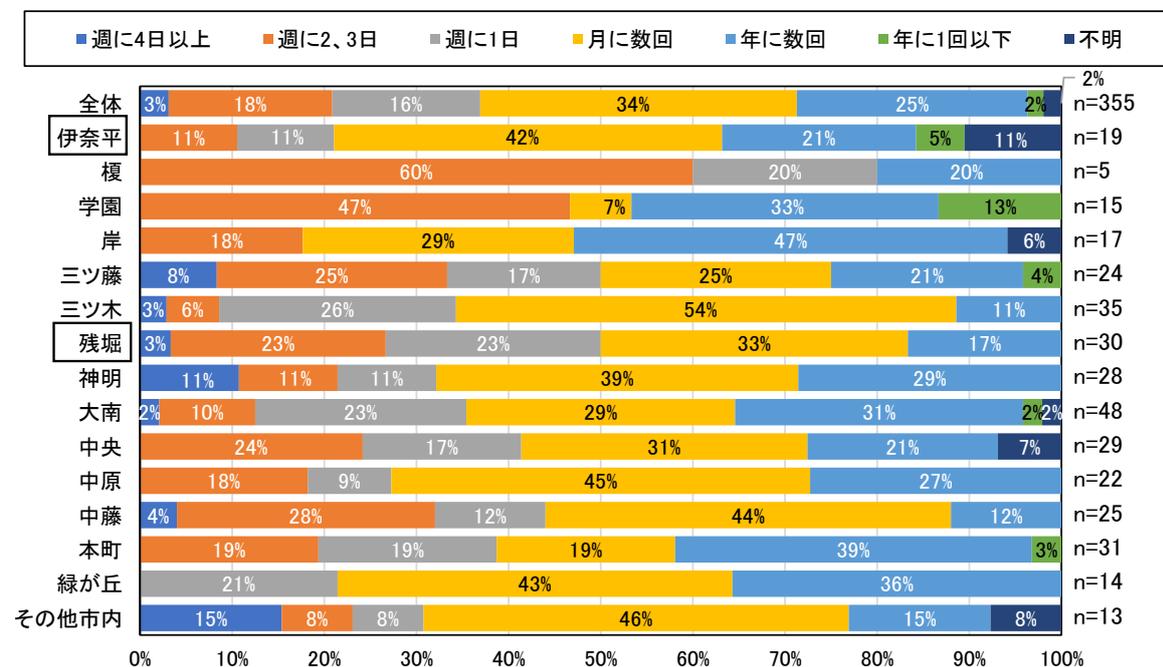
ルート不明  
含む

図 34 むらタク導入時の利用意向

(2) むらタクを利用する場合の利用頻度

①市民の利用頻度の意向 (市民意向調査より)

・全体では、週に1日以上とする割合は37%である。



注) □で囲まれた地区はむらタク利用登録可能なエリア

図 35 居住地別・むらタク利用時の利用頻度

②MMシャトル利用者の利用頻度の意向 (市内循環バス利用者意向調査より)

・「月に数回」が最も高く、次いで「週に2、3日」である。  
 ・また、週に1日以上で見ると48.3%である。

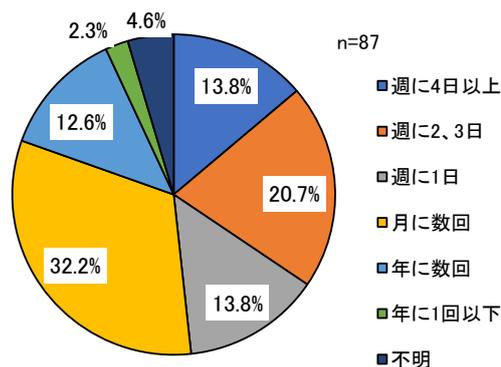


図 36 むらタクを利用する場合の利用頻度

3-4. 乗合タクシー意向調査に基づく利用特性、意識・意向

(1) 乗合タクシー（むらタク）の利用状況、満足状況（利用者意向調査、市・事業者データ）

調査結果概要	利用状況（市・事業者データ）		利用者の属性	利用特性		利用する理由	利用者の満足度
	月別利用者数 (P20)	H31.4~R2.2:248~351人、平均299人 R2.9:337人、R2.10:336人、R2.11:275人、R2.12:256人	年代(P23) 70代以上が 79.0%	乗車曜日 (P23)	月～金60件、土曜2件の回答者数	(P24) ・「ほかに移動手段がない」 (58.1%) ・「安く移動できる」(32.3%) ・「ほかの移動手段よりも便利」 (30.6%)	(P24) ・乗降場所の少なさへの不満が50% ・終発が早いことへの不満が46% ・日曜・祝日運行の希望が66% ・総合的な満足度は90%が満足
乗降場所別 利用者数(P20)	交通プラザと武蔵村山病院が1,500人以上、市役所と医療センターが500人前後			乗車時間帯 (P23)	午前中が64.6%		
利用率(P21) (実利用者数÷ 登録者数)	H31.4~R2.2:7.7%~12.5% R2.9:8.0%、R2.10:8.5%、R2.11:7.5%、R2.12:7.2%			目的(P23)	通院が51.6%、買い物25.8%		
利用頻度 (P24)				利用頻度 (P24)	月数回45.2%、週1日以上33.8%		
総括	○令和2年7月以降、1回目の緊急事態宣言発出前並みに回復 ○主に、イオンモール、病院への移動に利用されている。 ○登録者数に対して実際の利用者数は少ない。		○利用者多くは高齢者である。	○主に通院、買い物に利用されている ○MMシャトルは様々な目的で利用されているが、むらタクは特定の目的で利用されている。		○ほかに移動手段のない人々にとって欠かせない移動手段となっている。	○日・祝の運行、乗降場所増設、終発の繰下げ希望が多い。 ○一方、現状の土曜日利用の回答は2件と少ない。また、利用時間帯の大半は午前中であり、午後の利用は少ない。

(2) 市民及びMMシャトル利用者の乗合タクシー（むらタク）の認知度、利用意向

	むらタクの認知度 (P22)	むらタクの利用意向	
		利用の有無 (P25)	利用頻度 (P26)
市民全体	・知らない割合は、市全体で44%、運行地域の伊奈平で29%、残堀で37% ・運行地域で運行内容も知っている割合は、伊奈平で21%、残堀で10%	・全体では、「利用すると思う」は約2割、「利用しないと思う」は36%。一方、「わからない」は41%と高く、判断できない人が多い。	・月に数回が34% ・週に1日以上でみると37%
MMシャトル利用者	・全体では「知らない」が38.1% ・むらタクが運行されているエリアを走行する西ルートでは認知度が高いが(76%)。	・「わからない」が全体で35%と高く、判断できない人が多い。「利用すると思う」は24%、「利用しないと思う」は33% ・「利用すると思う」は日中時ルート利用者が相対的に高い。玉川上水ルート(日中時)が34%、西ルートが33%、上北台ルート(日中時)は25%(P20)	・月数回が32.2% ・週1日以上では48.3%
総括	○全体的に認知度が低く、運行内容まで知っている割合は低い。	○全体的に、むらタクの利用意向は低いが、MMシャトルの日中時利用者の利用意向は相対的に高い。	○月数回程度の利用が約1/3